素顔拝見

口腔生化学分野

市　木　貴　子

2021年５月より口腔生化学分野に所属させていただいております、市木 貴子（いちき たかこ）と申します。赴任してから３年経つのですが、前号の歯学部ニュースの編集担当の際、この「素顔拝見」に未参加であったことが判明し、遅ればせながら、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

出身は広島県広島市で、中高一貫女子高のノートルダム清心高校を卒業し、九州歯科大学歯学部を卒業しました。その後九州大学病院で歯科医師臨床研修を行った後は、臨床に携わることなく基礎研究のみ行ってきました。学部学生時に、後藤哲哉先生（現 鹿児島大学歯科機能形態学分野教授）のご厚意により研究室に出入りさせていただき、知覚神経系による骨代謝制御メカニズムの研究に携わらせていただいたことで、基礎研究の面白さに目覚め、基礎研究者になることを決意し今に至ります。基礎研究は基本的には地味で根気のいるもので、特に論文のリバイス実験等になるとかなりの忍耐を必要としますが、初めて実験系がうまくいったときや新たな知見が得られたときの喜びは何事にも代えがたいものがあります。私がしていただいたように、歯学部の学生さんたちや大学院生に基礎研究の面白さを伝えていきたいと考えております。

加茂川の鯉のぼり　子供と一緒に

大学院は順天堂大学医学部生化学第一講座にて横溝岳彦先生のもと、ロイコトリエン等の脂質メディエーターとその受容体の機能解析に従事いたしました。博士課程修了後、かねてより興味のあった神経科学研究に従事したいと考え、４年ほど米国カリフォルニア工科大学Oka Lab（PI, 岡勇輝先生）にてポスドク研究員として研究を行っておりました。飲水行動を制御する神経基盤の解明に取り組み、消化管における浸透圧センシング機構の解明を目指した研究を行いました。帰国後、新潟大学スイングバイプログラムにて採用いただき、口腔生化学分野で研究を開始しました。生化学のバックグラウンドを活かしながら、マウスを用いた*in vivo*イメージング実験を行い、内臓感覚メカニズムの解明に取り組んでいるところです。新潟には一度も訪れたことのない状況で、夫（歯科麻酔科 山本徹）とともにカリフォルニアから赴任いたしまして、最初は冬の天気の不安定さ、寒さに驚愕しておりましたが、やっと慣れてきたところです。私生活では娘が現在２歳のイヤイヤ期まっただ中で、頭を悩ませつつも日々育児に研究に奮闘しております。ちなみに、広島出身で父から英才教育を受けたこともあり、野球観戦が趣味で、大のカープファンです。今年は９月に大失速しとても残念でしたが、来年以降に期待してめげずに応援します。

最後になりましたが、研究室の照沼美穂教授をはじめ、お世話になっている先生方に深く感謝申し上げます。微力ながらも新潟大学に少しでも貢献できるよう努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

摂食嚥下リハビリテーション学分野

笹　　杏　奈

令和６年４月１日付で摂食嚥下リハビリテーション学分野の助教を拝命致しました、言語聴覚士の笹杏奈と申します。歯学部ニュースの「素顔拝見」の執筆の機会をいただきましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

生まれは北海道留萌市（るもい）で新潟市より風も強く雪も１時間で膝丈ほどまで積もり、１ｍ先が見えないと年始の全国ニュースに良く取り上げられる豪雪地帯で育ちました。高校からは札幌市で過ごし、札幌日本大学高等学校に通っておりました。高校では、勉学に励むとともに茶道部に所属しお茶を立てたり、学祭に向け浴衣の着付けを覚えたりと過ごしておりました。一方、私生活では、草サッカーチームの審判をしていた父の影響でサッカー観戦が趣味となり、北海道コンサドーレ札幌の試合はホーム戦全試合観戦と足しげく通っておりました。今でもサッカー観戦は大好きで、新潟に来てからはじめての「遠征」を経験しました。コンサドーレに限らず、アルビレックス新潟の試合はもちろんのこと、日本代表の試合も現地観戦しております。ゴール裏の旗振りの最前線で応援しております。テレビにチラッと映ることがしばしばあるので、ぜひ探してみてください。

私が言語聴覚士を目指したきっかけは、高校時代にひょんなことから言語聴覚士の仕事に触れる機会があり、私が大好きな話すことや食べたり飲んだりすることに障害が起こり困っている方がいること、そしてそれを治療するためのリハビリ職があることを知り、これは天職かもしれない！と思い、北海道医療大学心理科学部（現　リハビリテーション科学部）言語聴覚療法学科へ進学致しました。大学では、私が井上誠教授にお会いするきっかけを作ってくださった恩師の飯泉智子先生と出会い、今でも刺激を受けており目標の先生です。2015年３月に言語聴覚士免許を取得し、同年４月より札幌市内の急性期および回復期病棟を持つ中核病院にて勤務し、2017年１月より摂食嚥下リハビリテーション学分野に入局し、大学病院における嚥下臨床、在籍されている先生方の研究業務に携わらせていただきました。更に摂食嚥下機能をより深く探求すべく2018年４月から大学院に進学し、モーションキャプチャによる顎運動や嚥下内視鏡画像、筋電図波形から固形食品の咀嚼嚥下動態の解析を行っておりました。大学院修了後は、新潟市内の回復期病院に２年間在籍するとともに、非常勤研究員として医局に籍をおかせていただいておりました。

最後になりますが、新潟大学歯学部で助教として初めて採用となった言語聴覚士として、身の引き締まる想いです。どのような形で新潟大学歯学部の発展に寄与できるのか、手探りではございますが、研究臨床教育にと精進して参りたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。

2023年10月サッカー日本代表vsカナダ代表戦＠デンカビックスワンスタジアムにてサッカーメディアのゲキサカデビューを飾りました

顎顔面口腔外科学分野

小　林　亮　太

2024年４月より、顎顔面外科学分野の助教を拝命いたしました小林亮太と申します。この場をお借りして、簡単に自己紹介をさせていただければと思います。

私は新潟市北区豊栄の出身です。地元の光晴中学校に通っておりましたが、当時の学校は大変荒れており、窓ガラスが割られたり、体育館裏でたばこが見つかるような環境が日常でした。その後

は新潟高校、新潟大学というように、ほぼ生活圏が変わっておりません。二世歯科医師ということも相まって、強く自己主張することもなく、狭い範囲の中だけで生きてきてしまったのではないかと最近思うようになり、私の人生とは何か、やるべきことは何かと考える毎日です。

大学院は生体組織再生工学分野の泉健次教授の基で研究をさせていただきました。研究の基礎的な知識や技術はもちろんのこと、研究に向き合う姿勢や考え方などを教えていただき、とても充実した毎日を送らせていただきました。大学院卒業後、一般的には数年ほど関連病院への出向となりますが、私は大学に残り、研鑽を積む機会をいただきました。特に、口蓋裂や顎変形症に関する診療と手術を中心に取り組んでおります。当科は昨年で開講50周年を迎え、当初から口蓋裂診療に力を注いできた伝統がありますが、近年は医局員の減少もあり、その継続が難しい状況に直面しています。若輩者ながらこの灯火を絶やさぬよう、次世代へ引き継ぐためにも日々精進しているところであります。医局の伝統と弊習を勘違いしないように、これからの新しい医局体制に少しでも貢献できればと考えております。

そんな中、日々のストレス発散とリフレッシュは食事とワインが担ってくれています。特に食事に関しては、医局内で師匠と仰ぐ先生から紹介いただいたお店に通ったり、時には県外まで足を延ばして美味しいものを探しに行くこともあります。一方で、ワインに関してはここ数年で深くのめり込むようになり、主にフランスワインを嗜んでおります。最近、ワインセラーを大き目のものに買い替えましたが、気付けばすぐに満杯になってしまい（外に溢れたりして）、家族からの冷たい視線に肩身の狭い思いをしています。今年の夏は「泡」をテーマに多くのスパークリングワインを楽しむことを目標に掲げ、数多くのおいしいシャンパンに出会えたことが何よりの収穫でした。ワインを通じて新たな発見や人とのつながりを楽しむ時間は、私にとってかけがえのないものです。

ワインと私

これまでの人生を振り返ると、荒れた環境から始まり、いろんな人との出会いで多様性に触れ、責任ある仕事に就くまでの経験はすべて、自分を形作る大切な要素だったと感じています。これからも医療現場での研鑽を続ける一方、大切な人と一緒に趣味を謳歌しつつ、新しいことへの挑戦を楽しみながら人生を歩んでいきたいと思っています。

❀

摂食嚥下リハビリテーション学分野

菊　池　裕　子

2024年４月１日付で摂食嚥下リハビリテーション科の特任助教を拝命いたしました。菊池　裕子と申します。この度「素顔拝見」の執筆の機会を頂戴しましたので、この場をお借りして自己紹介させて頂きます。

出身は新潟市南区で３年間、学校町にある高校に通学していました。そのため、〇十年ぶりに？再びこの地へ毎日通うことに懐かしく不思議な感じがしています。さて、話がそれましたが、高校卒業後、親元を離れて都会へ行きたいと強く思い東京の女子大へ進学、一般企業へ就職、結婚した相手が歯科医（開業医）であったことから、手伝って彼を支えたいと思い？歯科衛生士となって働いておりました。

しかし、何が起こるか分からないのが人生です。身内の者が、手に力が入らないと新潟大学医

歯学総合病院の脳神経内科へ検査入院し難病であることを告知されました。それから診療所と介護の二重生活が始まりました。この介護の経験から、看護師になって患者さんを支えていきたいと思い、新潟大学医学部保健学科 看護学専攻へ社会人入学、卒業し看護師として働きながら大学院へ進学しました。

ここで、私の新潟大学大学院保健学研究科での研究を紹介いたします。先にもお話した通り私は、看護師として病院に従事していた中で、低栄養や誤嚥性肺炎に容易に罹患してしまう高齢患者を数多くみてきました。患者の療養上の世話は看護師の役割の一つで臨床現場において、口腔ケアや食事介助など常に患者のケアを行い観察し異常をいち早く発見するのは看護師です。これにより、看護師が患者の口腔内や食事の評価を簡便にスクリーニングできるアセスメントシートについて研究しこの春、無事に卒業いたしました。

そしてこの先、どうしようかと考えた時、私は歯科衛生士でもあるため、保健学と歯科学、両方の視点から研究できないものかと考えていたところ、摂食嚥下リハビリテーション学のパイオニアで研究の共著者として論文のアドバイスを頂いていた井上誠先生のもとで学びたいと門をたたき現在、大学院生兼特任助教として日々奮闘し充実した毎日を過ごしております。

最後に、歯学部出身ではない私のような他分野の者が学べる場がある大学の懐の深さに敬意を払いつつ、この場をお借りして井上誠先生に心より感謝申し上げます。そして、未熟者でございますが、新潟大学の発展に貢献できるよう尽力していく所存です。皆様、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

桜満開の京都にて

生体歯科補綴学分野

土　橋　　梓

2024年４月１日付で生体歯科補綴学分野の特任助教を拝命いたしました、土橋　梓と申します。この度、歯学部ニュースにて貴重な執筆機会をいただきましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

出身は山梨県笛吹市です。温泉街が近く、桃や葡萄が名産で、実家から富士山の山頂部が見える場所で高校時代まで住んでいました。

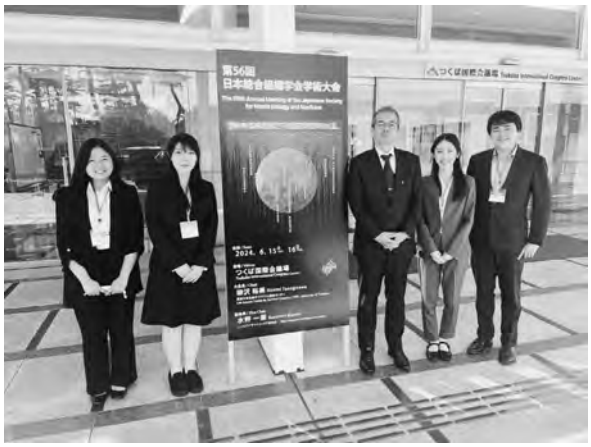
新潟大学歯学部49期生として入学し、個性豊かな同期に恵まれ、楽しい６年間を過ごしました。硬式テニス部に所属し、部活動を通してテニスの技術向上や体力維持に加え、上下関係の厳しさや、同期との助け合いといった有意義な学びを得られました。趣味である旅行も大学時代から始まりました。海外旅行をするために様々なアルバイトをしていたことも、今となっては歯科医師以外の仕事をする良い経験となりました。旅行に行くとその時その場でしか得られない感動があり、その魅力に夢中になり、コロナ渦が明けてからまた海外に出かけています。

2019年に卒業し、研修医修了後、生体歯科補綴学分野の大学院へ進学しました。当分野では、大学院の４年間は臨床と研究の両立にTA業務も加わり、多忙な日々を過ごしましたが、同じ研究グループの先輩後輩、他分野の同期に支えられ多くの業績を残すことができたと思います。入局当初は臨床を頑張りたいと思っていたものの、メンターの加来先生の臨床・研究に対する熱い思いに圧倒され、私も少しずつ基礎研究での面白さと、研究成果が出たときの達成感などを感じられるようになりました。まだまだ未熟ですが、研究者としての第一歩目を踏み出した大学院時代でした。

大学院卒業後は、生体歯科補綴学分野の特任助教と、全学のPhDリクルート室育成助教を兼任しております。PhDリクルート室では、主に博士人材のキャリア開発支援を行っています。私はキャリア支援のイベント運営補助や、博士学生支援プログラムに参加している学生の面談や相談窓口の仕事を行っています。歯学部に所属していると、アカデミアに残って歯学研究者の道、または臨床医の道のいずれかがほとんどであるため、卒後のキャリア形成の難しさを初めて知りました。まずは博士号取得直後の新鮮な気持ちで、博士課程の魅力を学生に伝え、学生に寄り添った相談ができるよう尽力したいと思います。

当分野では、大学院時代よりも臨床が増え、慌ただしい毎日を送っています。研究においては、大学院から続けている歯根膜とその細胞外マトリックスの研究について幸運にも日本生化学会でシンポジストとして発表をしました。著名な先生方と並ぶのは大変恐縮でしたが、我々加来班の研究内容の面白さを伝えることができ、最終目標である歯根膜再生につなげられるように今後も更なる研鑽を積みたいと思います。

最後に、未熟ではありますが、生体歯科補綴学分野だけでなく新潟大学歯学部の発展に貢献する所存です。今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



加来班のメンバーと日本結合組織学会にて
（著者右から２番目）